

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 4月 1日

事業所名 あすなるクラブ鍋島

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		構造化された空間で、分かりやすくなっている。	
	2 職員の配置数は適切である	6		出来るだけ1対1で支援できるように配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		利用児童に分かりやすい構造化された空間になっている。一部バリアフリーになっていないが、フロアマット敷きケガないように配慮している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		朝と終了時に、掃除と消毒を行っている。楽しみながら活動できるような空間づくりをしている。	
業務 改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		全ての職員が参画し、業務改善に努めている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者様よりご意見をいただいた時は、職員全員に周知し、改善を行うように心掛けている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		ホームページにて公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		現時点では、外部評価は行っていないが、今後検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		資質の向上を行うため、研修の機会を随時設けている。	
適切 な 支	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		アセスメントをとり、相談支援員や保護者からの聞き取りなどを行って作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		相談支援計画書や保護者様からの聞き取りやアセスメントから、支援内容を設定するようにしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		行なっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		行なっている。	

援 の 提 供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		子どもたちが興味を持って楽しく活動できるよう工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		相談支援計画書や保護者様からの情報をもとに、作成するようにしている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		朝礼で、確認をおこなっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		終礼で、振り返りを行い職員間で共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		毎回記録をとり、検証・改善につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		半年に一回モニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児童発達支援管理責任者が参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		情報の共有を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		相談支援員を通して、支援会議や情報の共有を行うようにしている。園への送迎時にも、随時情報の共有をしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		支援会議等に参加し、情報の共有をおこなっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		助言をいただき、それを元に研修会をおこなっている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		必要があれば、利用児童の特性に配慮しながら、可能な範囲で交流の機会を設けていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6		放デイ連絡協議会等や大学等の会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		ご自宅に送迎した時や連絡帳などを通して、情報を共有している。	

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6		保護者様からのご依頼があった時におこなっている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時におこなっている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		半年に1回、見直しを行い同意を頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		相談があった時には、必要な助言をするようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		月に1回ママズルームという保護者様同士の交流の場を設けている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		必ず対応できるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		2か月に1回の通信やインスタで発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		十分注意して行っている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		スタッフ間で情報共有し、十分配慮している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		今後、招待できる行事があれば検討はしていきたい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		マニュアルは、職員に周知している。発生を想定した訓練を実施している。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年に5回の避難誘導訓練等をおこなっている。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		確認し、状態を把握するようにしている。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		お弁当は持参していただいたものを提供している。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット事例があったときは、全事業所で共有をしている。	
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		毎年研修をおこなっている。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		契約時に重要事項説明書に記載があり、お伝えをするようにしている。	